

岡山県立大学教育研究紀要投稿規程

1. **趣旨** この規程は、岡山県立大学(以下、「本学」という)共通教育部及び教育開発センターから発行する「岡山県立大学教育研究紀要」(以下、「本紀要」という)への投稿に関し、必要な事項を定める。
2. **発行目的** 本紀要は、本学の教育研究を掲載し、本学の教育の発展に資することを目的とする。
3. **投稿資格** 本紀要への投稿者(筆頭著者)は本学教員(非常勤講師・特任教員を含む)、事務職員、客員教授・准教授及び連携大学院教員とする。ただし、共著者についてはこの限りではない。
4. **原稿の種類** 本紀要に掲載される原稿の種類は、「論文」、「研究ノート」、「その他」(「総説」、「評論」、「資料」、「翻訳」など)の3種とする。
5. **投稿申込、投稿、受理及び掲載**
 - (1) 投稿申込書及び原稿の提出先は編集委員会とする。
 - (2) 原稿は未発表のものに限る。
 - (3) 各号への投稿は、原則、一人1編とする。ただし、共著論文における第2著者以降についてはこの限りではない。
 - (4) 投稿申込書の受理及び査読前原稿の受理の決定は編集委員会が行う。
 - (5) 原稿の掲載の決定は査読者の意見を参考にして編集委員会が行う。
 - (6) 提出締め切り日を過ぎた投稿申込書及び原稿は受理しない。
6. **執筆要領**
 - (1) 原稿は、必ず Word ファイル「原稿入力フォーマット」をテンプレートとして使用し作成する(レイアウトを変更した原稿は受理せず、修正を求める)。A4 サイズとし、余白は「上:35mm」「下:30mm」「左:30mm」「右:30mm」とする。
 - (2) 本文のフォントは、和文、英文とも BIZ UDP 明朝 Medium(10.5 ポイント)または相当のフォントを使用し、1 ページの行数を 36 行とする。本文は 1 段組みとする。タイトル、著者、所属、要旨、キーワードも 1 段組で記述する。
 - (3) 使用言語は日本語(和文)または英語(英文)とする。長さは原稿一編につき図、表、写真、(4)、(5)記載項目等を含めて刷り上がり 15 ページ以内とする。ページ数を大幅に超過した原稿は査読には回さず返却する。
 - (4) 和文原稿はタイトル、著者、所属、400 字以内の和文要旨、キーワード(5 語以内)を付す。また、英文タイトル、著者、所属、300 語以内の英文要旨、キーワード(5 語以内)を原稿の末尾に記入する。
 - (5) 英文原稿にはタイトル、著者名、所属、300 語以内の要旨、キーワード(5 語以内)を付す。また、和文タイトル、著者、所属、400 字以内の和文要旨、キーワード(5 語以内)を原稿の末尾に記入する。
 - (6) 和文原稿は横書きで、原則として常用漢字・新かなづかいを用い、句読点は全角「、」「。」または全角「,」「.」、数字は算用数字を用いる。また、英数字は半角とする。
 - (7) 外国の人名・地名などの固有名詞は、原則として原語を用いる。その他の外国語はなるべく訳語を用いて記載する。外国語を用いる場合は、初出の際に訳語の後に()をつけて示すものとする。

- (8) 図、写真については著作権に配慮し、また明瞭なものとする。
- (9) 文献の記載方法及び例(要件が揃っている場合は、下記の例に従わなくても著者が普段投稿する代表的な雑誌の方式に合わせても良い)

参考文献や引用文献は、本文の終りに「文献」の見出しで著者の姓を基準にしてアルファベット順に一括して記載する。本文中の引用箇所では、筆頭著者名(・・他)と年号を入れる(例:(岡山他、2015)。

文献記載例:

1) 雑誌の場合、

著者名(発行年)、題名、雑誌名、巻(号)、ページ。

- ・松田 岳士、石橋 嘉一、中山 実(2015)コモンルーブリックが測定している能力の再検討シラバスへの反映の試み (教育工学)、信学技報 114(441):23-28.
- ・Long, M.H. and Crookes G. (1992) Three Approaches to Task-Based Syllabus Design. TESOL Quarterly, 26: 27-56.

2) 単行本の場合、

著者名(発行年)、題名、版、発行地(外国の場合のみ)、発行所。

- ・苅谷剛彦(1992)アメリカの大学・ニッポンの大学: TA, シラバス, 授業評価、玉川大学出版部。
- ・Nunan D. (1988) Syllabus Design (11th edition), Oxford: Oxford University Press.

3) モノグラフ図書の一部を利用した場合、

章の著者名(発行年)章の題名(編者名、書籍名、章のページ、発行地。

- ・鶴田清司(2015)国語科:「根拠・理由・主張の 3 点セット」で論理的思考力・表現力を育てる。(奈須正裕、江間史明編、教科の本質から迫るコンピテンシー・ベースの授業づくり、pp.xxx-xxx.図書文化社)。

4) 翻訳書の場合、

原著者名(原書発行年) 訳者名(訳書発行年)題名、版、発行所。

- ・Korthagen, F. A. J. 著(2001) 今泉友里, 鈴木悠太, 山辺恵理子 訳(2010). 教師教育学 : 理論と実践をつなぐリアリティ・アプローチ、学文社。

5) 翻訳された図書、原著を利用した場合、

原書データの後の()内に訳書のデータを示す。

6) 政府刊行物等インターネット掲載記事を引用する場合、

タイトル、URL、日付等のデータを示す。

7. 投稿申込及び投稿の方法等

- (1) 投稿申込については、Excel ファイル「投稿申込書」で作成し、電子メールを使用して編集委員会に提出する。
- (2) 提出された投稿申込書については編集委員会が審査を行う。その結果、修正を指示する場合がある。
- (3) 原稿については、Word ファイル「原稿入力フォーマット」で作成した電子ファイルを、Microsoft Word ファイル及び PDF ファイルの 2 つの形式で、投稿申込書の受理後に、電子メールを使用して編集委員会に提出する。

- (4) 提出原稿は査読を行う。査読及び修正の済んだ掲載用最終原稿は、上記電子ファイルの形式で、電子メールを使用して編集委員会に提出する。
- (5) 本紀要に関する問合せ(投稿申込、投稿、編集、発行等のすべて)がある場合は、電子メールを使用して編集委員会に連絡する。回答は編集委員会が行う。
8. **校正** 校正は行わない。ただし、編集委員会から原稿体裁に関する指示をする場合がある。また、原稿体裁に関する軽微な修正を編集委員会が行う場合がある。
9. **掲載料、別冊** 掲載料等については徴収しない。別冊は最終版の PDF を作成し、贈呈する。
10. **著作権**
- (1) 紀要に掲載された原稿の著作権は岡山県立大学に帰属する。
- (2) 著者は原稿の電子化による本学学術情報リポジトリによる公開を許諾するものとする。
- (3) 著作権の運用は、「研究紀要公開のための著作権処理手引き」(国立情報学研究所、2002 年 11 月)に従う。
11. **付則**
- 本規定は岡山県立大学教育研究紀要第 1 巻 1 号(2016)から適用する。

第 1 版	2016 年 8 月 2 日
第 1.1 版	2016 年 8 月 5 日
第 2 版	2016 年 10 月 17 日
第 2.1 版	2017 年 10 月 4 日
第 3 版	2019 年 12 月 25 日
第 4 版	2020 年 9 月 1 日
第 5 版	2021 年 9 月 1 日
第 6 版	2022 年 9 月 1 日
第 7 版	2023 年 9 月 1 日
第 8 版	2024 年 8 月 30 日